

仕事を始めて思ふこと

大阪支部 宗本 智之

今年、2014年1月から、株式会社仙拓というところで働くこととなりました。働くといいますが、時給780円、月にして約1万円程度の唯のバイトです。フェイスブックで知り合った、社長の佐藤仙務さんに、一緒に働きませんかといわれ、そういえば、働いていないなあと思ひ、当たり前のことをやってみた感じでした。最近では、僕より過酷な環境、病状で稼いでる人もたくさんいるので、そのことにも後押しされたのかもしれませんが、僕の担当は、Web分析。プロではないので、

あくまでも簡易なものですが、仙拓のHPの細かい流入などの動きを調べ、表やグラフ化し、対応を検討するという内容です。htmlやcssを、ざっと理解したり、突然、三冊の本を送られて、ひな型もないところからエクセルでファイルを作るなど、準備がかなり面倒でしたが、仕事自体は、この自作ひな型に、データを吸い出して、打ちこんでいくという簡単な作業です。

やってみて思つたのは、25日が嬉しかったり、銀行が混んでいる意味が分かったりと、バイトとはいえ社会人というものの感覚を少し感じる事ができ、視野が広がったということでした。このお金や仕事時間が大きくなり、自ら生計を立てていくことが社会人ということなのでしよう。初給料で親に物を買う、ということも体験でき、有り難いことです。社長は、どんどん障がい者を雇っていきたいといっています。しかし、働くという台の上に立つと、そこにはもう障がい者というバリアはありません。それは嬉しいことですが、厳しいということでもあります。崩れていく体のコントロールと意思疎通が、大切かと思ひます。少しでも長く続けられるよう、頑張っていきたいと思ひます。